

(別紙)

平成 30 年度さとうきび生産改善共励会受賞農家の概要

(公社)鹿児島県糖業振興協会

農家の部

1 受賞農家

成績	市町村名	農家名	受賞区分
最優秀賞	知名町	神崎 兼三 (46 歳)	鹿児島県知事賞

2 農家の概要

- ・経営耕地面積：20.90ha さとうきび作付面積：20.90ha
- ・認定農業者 ・労働力：3人（本人，妻，父親）
- ・さとうきび専作農家（夏植＋株出し体系）

(1) 生産振興の取組

ア 単収・品質向上の取組

新植(夏植)に際しては、全てのほ場をプラウで深耕を行うとともに、堆肥を平均 3 トン/10a 施用して土づくりに努めている。株出しほ場においても、株出し管理に併せてプラソイラによる深耕を行っている。

さとうきび栽培指針に基づき肥培管理を行い、茎数の確保により単収の向上に努めている。害虫に対しては、早期の防除を心がけている。

栽培品種は農林 22 号 (80%) と農林 8 号 (20%) であるが、今後は農林 27 号・30 号の導入も検討している。採苗ほの苗は、概ね 3 年ごとに優良種苗 (原苗) に更新している。

台風時の潮風害の被害を抑えるため、畑かん施設や町所有のトラックタンカー (散水車) を利用して散水を実施し、安定生産に繋げている。

株出し管理については、収穫作業を受託 (20ha) している農家のほ場が優先され、自作ほ場は後回しになる傾向にあるが、収穫作業後できるだけ速やかに株出し管理を実施するよう努めている。ほ場条件にもよるが、株出し回数は 4~5 回である。

8 年前にビレットプランタを導入し、ハーベスタ収穫による採苗と併せて、植付作業の省力化を図っている。このことにより、植付から収穫までの機械化体系が確立している。

採苗したその日のうちに、通常の 3 倍量の苗を植え付けるが、発芽が 1 週間程度遅れるものの、発芽揃いは良好である。

大規模さとうきび専作経営であるが、平均単収は町平均を上回り、ここ 1・2 年は 1,000 トン近い生産量を上げ、生産量においては町内でも常に上位にある。

地域には高齢農家等が多いため、収穫作業を始め、植付作業 (30ha) も受託するなど、地域貢献にも努めている。

自然災害への備えの認識も高く、農業共済には 100%加入している。

イ 面積拡大の取組

経営耕地の概ね 50%が借地であるが、除草対策を徹底するなど適切なほ場管理により貸し手農家の信頼を得ている。このことが、周辺農家への理解に繋がり作付面積の拡大に繋がっている。

(2) 今後の農業経営の方向及び将来の目標

さとうきび専作経営であり、管理作業機 (大型トラクターなど) の導入により、経営規模に応

じた作業の機械化を図りながら、町内でも有数の大規模さとうきび専業農家を目指す。当面は、現状程度の経営規模を維持する。

夏植の割合を一定程度維持しながら、土づくり、適期の肥培管理の徹底などにより単収向上を図り、収穫量 1,000 トン超を目指す。春は、収穫や管理作業で忙しいため春植は実施せず、今後も、夏植+株出し体系を続ける。

高齢農家等への対応として、収穫作業以外の管理作業の受託も継続しながら、地域全体でさとうきび生産が維持できるよう地域貢献にも努めていく。

現在、青色申告を行っており、農業共済制度との経営的な比較検討を行い、来年から開始予定の収入保険制度への転換も検討する。

●農家の主要指標 (H29)

認定農業者の有無	耕地面積		作付面積			耕地利用率 ③/①	さとうきび作付面積割合 ④/③
	①	うち借地	さとうきび ②	その他	合計 ③		
有	20.90ha	10.59ha	20.90ha	0	20.90ha	100%	100%

●さとうきびの生産状況

年 度	新植夏植面積	収穫面積	合計	生産量	10a 当収量	平均甘蔗糖度	共済加入率
27 年度	6.1ha	12.2ha	18.3ha	856t	7,016kg	14.5 度	100%
28 年度	6.9ha	14.5ha	21.4ha	983t	6,779kg	15.1 度	100%
29 年度	4.2ha	16.7ha	20.9ha	987t	5,910kg	13.9 度	100%

(別紙)

平成 30 年度さとうきび生産改善共励会受賞農家の概要

(公社)鹿児島県糖業振興協会

農家の部

1 受賞農家

成績	市町村名	農家名	受賞区分
優秀賞	知名町	三原 利昭 (65 歳)	独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞

2 農家の概要

・経営耕地面積：6.91ha さとうきび作付面積：4.50ha
・認定農業者 ・労働力：3人（本人，妻，息子）
・さとうきびと肉用牛(繁殖)との複合経営
さとうきび：夏植＋株出し体系
肉用牛：繁殖雌牛 60 頭 子牛出荷頭数：平均 40 頭/年

(1) 生産振興の取組

ア 単収・品質向上に対する取組

肉用牛との複合経営のメリットを生かし、堆肥を積極的にさとうきびほ場（新植，株出しとも）に施用（6～8 トン/10a）し、プラウやプラソイラでの深耕と組み合わせて、徹底した土づくりを行っている。

さとうきび栽培指針に基づき肥培管理を行っているが、堆肥投入量との調整を図り、適切量の化学肥料の施用を行っている。

メイチュウなどの害虫に対しては、病虫害情報等を踏まえ、適期の防除を実施している。

収穫作業はハーベスタ組合に委託しており、収穫後速やかに自ら株出し管理を実施している。ほ場条件にもよるが、株出し回数は平均 3～4 回となっている。

栽培品種は、農林 8 号（60%）、その他品種（40%）となっているが、今後は、農林 27 号の導入も検討している。採苗ほの苗は、概ね 3 年ごとに優良種苗（原苗）に更新している。

経営耕地のうち 5 割程度に畑かん施設が整備されており、畑かん施設があるほ場では計画的に散水（10～20 トン/10a）を行い、安定生産に繋げている。

自然災害への備えの認識も高く、農業共済には 100%加入している。

イ 面積拡大に対する取組

さとうきびと肉用牛との複合経営であること、また、経営に占める肉用牛部門のウェイトが高いため、耕畜連携を重視しながら、積極的な堆肥利用によりさとうきびの単収向上を図り生産量を確保していく考えであり、極端な規模拡大は行わず、周辺農家の遊休農地の借り入れをしながら徐々に規模拡大を図っていくこととしている。

(2) 今後の農業経営の方向及び将来の目標

今後とも、さとうきびと肉用牛との複合経営を基本に据え、さとうきびについては、耕畜連携を重視しながら、堆肥を積極的に利用した単収向上による生産量の確保を図ることとする。

夏植＋株出し体系の中で、さらなる単収向上を目指す。

（単収目標）夏植：14,000kg/10a 株出し：11,000kg/10a

地域内の高齢農家等のために、栽培が困難となった農家の農地を借り入れしながら規模拡大を

図るとともに、地域全体でさとうきび生産が維持できるよう、地域貢献にも努めていく。

現在、後継者の息子に技術や経営のノウハウを伝授しており、将来的には、息子夫婦に経営を移譲する予定である。

●農家の主要指標 (H29)

認定農業者の有無	耕地面積 ①		作付面積			耕地利用率 ③/①	さとうきび作付面積割合 ④/③
		うち借地	さとうきび ②	その他 (牧草)	合計 ③		
有	6.91ha	3.77ha	4.50ha	2.41ha	6.91ha	100%	65%

●さとうきびの生産状況

年度	新植夏植面積	収穫面積	合計	生産量	10a当収量	平均甘蔗糖度	共済加入率
27年度	1.9ha	1.6ha	3.5ha	148t	9,244kg	14.5度	100%
28年度	1.3ha	2.7ha	4.0ha	349t	12,926kg	15.7度	100%
29年度	1.5ha	3.0ha	4.5ha	315t	10,500kg	14.4度	100%